起業家交流組織 TEO「起業」への関心高める

専大ベンチャービジネスコンテストに先駆けて開講された「ベンチャービジネス入門講座」参加者と、朝日監査法人の若手会計士らが設立した起業家交流組織「TEO」メンバーらによる懇親会が7月1日、生田キャンパスで開かれた。

この会は、学生の「起業」への興味を高めてもらい、産学連携のベンチャー創出に結び付けたいという「TEO」と、実際の起業家の声を聞かせ、キャリアプラン形成に役立たせたいという学生部の意向がマッチして実現したもの。「TEO」メンバーで本学OBのアクシブドットコム会長・尾関茂雄さん（平11法）らが体験を披露しながら学生を励ましてくれた。会場では名刺を手に熱心に質問する学生の姿が見られた＝写真。

【ニュース専修8月号10面】

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

夏期日本語・日本事情プログラム 留学生34人 勉強の成果を日本語で発表

▲プログラムでの勉学成果の集大成となるプレゼンテーション

夏期日本語・日本事情プログラム（6月13日～8月1日）のプレゼンテーションが7月25日、生田キャンパスで開催され、短期留学生34人が発表を行った。

このプレゼンテーションは、約6週間にわたる同プログラムの勉強成果を日本語で発表するもので、日々の日本語学習はもとより企業見学、日本文化の鑑賞や実習、学内の日本人学生との交流、ホームステイなどの体験をもとにそれぞれが興味あるテーマを決めて取り組んだ。

当日はレベル別にパワーポイントなども利用して行われ、会場には日本語の先生、学生、ホームステイ先の家族も訪れて短期留学生の熱のこもった発表を傾聴した。

来日3度目で「テレビの語学番組」をテーマに発表したセルゲイ・ガルシコくん（ロシア極東大学）は「日本語の聞き取りの勉強になるので、テレビの語学番組や料理番組をよく見ます。発表は思ったとおり出来ましたが、質問に上手に答えられなかったのが残念。将来は日本語を生かした仕事に就きたいと思います」と笑顔で語った。

【ニュース専修8月号10面】

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

県人会北から南から 特別編

今回は特別編として、連合県人会（連県）主催行事の中から2つを紹介します。

第37回川島正次郎杯争奪野球大会 NITが100チームの頂点に

▲実行委員一同（前列右から4番目が八木実行委員長）

今回で37回目となる「川島正次郎杯争奪野球大会」。5月26日から1カ月にわたり、トーナメント形式で熱戦を繰り広げた。6月28日の決勝では「NIT」が4-0で「ミレニアム」を降し、参加100チームの頂点に立った。

八木孝之実行委員長（商4・愛媛県松山北高）を中心に、各県人会から集まった実行委員30人が運営。八木実行委員長は「グラウンドの借用が計画通りにいかず苦労しました。決勝戦の後、参加者から“ありがとう”と声をかけられ、頑張ってよかった」と話した。

第22回フレッシュマンキャンプ 1年次生70人が交流深める

▲清里山荘前に全員集合（最前列左から3番目のピンクのTシャツが高橋実行委員長）

県人会の新入会員同士の親睦を図る「第22回フレッシュマンキャンプ」が6月27から29日まで、山梨県の清里山荘で行われた。1年次生70人と、連県本部の19人が参加し、キャンプファイアーやスポーツレクリエーションなどを通して交流を深めた。

高橋秀行実行委員長（経済4・神奈川県旭高）は「さまざまな県の会員と話し合ったことで、活動を活性化させるきっかけにしてほしい。私自身も楽しめる、良いキャンプになりました」と話した。

【ニュース専修8月号10面】

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

MUU-MUUプロジェクト～タイ語で手と手を～ 若林明奈（国際経済学科2年）

▲WSK（ワットサーキャオ）内の幼稚園で、最後のお別れの日に

▲WSK寺孤児院の中学生組と（中央が若林さん）

私は、大学1年の6月から「地球市民の会かながわ」という、タイ山岳民族の子どもたちの就学支援を行っているNGO団体に、インターンとして週に1回ほど通っています。学生時代に、何かをやってみたいと思っていた時、国際交流会で参加したタイの水かけ祭りでこのNGOを知り、勇気を出してパンフレットをもらって帰ったことがきっかけでした。ここで大学生がどんなボランティアをしているかといえば、事務局内の掃除から簡単な文章作成、チャリティーバザーでのフェアトレード商品の販売などさまざまです。

また今回そこで、大学生が主体となって企画する「MUU-MUUプロジェクト」に参加し、ソニーマーケティング学生ボランティアファンドから助成金をいただき、今年の春休みに1カ月間、チェンマイ、メーサイ、アユタヤにある支援先や施設を訪問しました。

貧困、麻薬、家庭崩壊などを抱えているWSK寺孤児院では、同じ目線に立って、2週間寝食を共にし、アンケート調査、文化・スポーツ交流、日本語教室などさまざまな活動を行いました。到着した日は、タイ語の全く出来ない私が1人で50人以上住む女子寮に泊まることになり、不安と緊張で、いつも視線を感じていました。何回か共に夜を明かすうち、彼女たちも心を開いてくれ、隣に寄り添って手をつないで離さなかったり、私のひざに頭をもたれかけたりして、外国人の私を姉のように受け入れてくれました。何よりもうれしいことでした。

不思議なことに、気持ちというものは言葉の壁を超え、自分の心に響いてくるのです。こんな気持ちは生まれて初めてでした。お別れの日には、私が子どもたちに出会えたことへの感謝の気持ちでいっぱいでした。

しかし、ストリートチルドレンの夜の同行調査では、WSKの子どもたちが、まだ幸せであると思わずにはいられませんでした。小さな子どもたちが、夜になると日本人などの観光客に花を売り歩くのです。そこには麻薬、売春、エイズ問題がすぐそばに現実として存在しています。日本人として生まれたことを深く考えさせられました。国が違うだけで、必然的に自分に与えられている選択肢が全く違ってくるのです。「勉強がしたい」と、よく口にしていた子どもたちの言葉に、いかに教育という恩恵が受けられることが幸せであるかを思わずにはいられませんでした。学生である今、こうした機会や人々に巡り会えたことに、本当に感謝しています。この文章が、みなさんが国際協力を考えるきっかけになれば、幸いです。

また、MUU-MUUプロジェクトの活動報告体験記は500円で販売しています。興味のある方は、下記のアドレスにメールをお願いいたします。
w140238@isc.senshu-u.ac.jp

【ニュース専修8月号9面】

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.